

NPO 法人ラーバン千葉ネットワーク

所在地 千葉県印西市木下 1708 (NPO 法人ラーバン千葉ネットワーク)



（アドバイザー派遣申請の背景）

市民団体の連携によるエコツーリズムの推進へ

台地に発展してきた千葉ニュータウンを取り囲むように里山地域が存在し、その里山を囲むように手賀沼・印旛沼・利根川がある当地域は、自然や歴史文化が豊かであり、また千葉ニュータウンには人口が流入しているため、まちとしての活気もある。

そのような背景から、近年スポット的に多くの市民団体がそれぞれの特徴をだして、おのおののフィールドで観光事業的な活動をしているが、それらを一括してまとめていく推進的な事業が存在していなかった。今回の申請でそれぞれの団体がエコツーリズムを理解し、力を合わせて、当地域の産業育成の為に行動を始めたなら地域活性化にお役に立てると考える。

エコツーリズムに取り組む目的	
従来の観光から脱して、新しい地域の魅力づくりを行うため	○
「自然とのふれあい」を志向する旅行者のニーズに対応するため	○
地域の活性化に貢献するため	○
地域資源の保全に対して「来訪者」の意識を高めるため	○
地域資源の保全に対して「地元住民」の意識を高めるため	○
地域の将来にわたって「自然環境や文化の保全」が特に重要な点だと考えているため	○
現在悪化しつつある地域の自然環境や文化の保全に役立てるため	○
(その他)	

エコツーリズムの対象となる自然観光資源	
動植物	
動植物の生息地・生育地	
地形・地質	
自然環境と密接な関連を有する風俗習慣、その他の伝統的な生活文化に係る観光資源	○
これから地域資源の洗い出しをするため、地域資源の把握ができていない	
<p>(主な自然観光資源) ニュータウン開発のすぐそばに日本の里 100 選に選ばれるような豊かな里山文化が現存する。手賀沼・印旛沼・利根川に囲まれた豊かな水域とそれらによってはぐくまれた里山景観。利根川水運の拠点地だった木下河岸周辺の文化。成田の羽田を結ぶ線上にある国際性。</p>	

現在取り組んでいる・取り組もうとしているエコツアーの種類	取組中	検討中
地域に特有な野生生物とのふれあい	○	
自然の営みにふれる観察会への参加	○	
地球科学的な視点から自然や暮らしとの関わりを学ぶ活動		○
環境教育を主目的とした活動		○
農林業などの体験を通じて自然への理解を深める活動		○
自然や文化に関する解説を受けながら地域を巡る活動	○	
地域の生活や文化を体験する活動	○	
環境保全のための貢献活動	○	
(現在取り組んでいること)		
(取組を検討していること)		

アドバイザー派遣の概要

●日時

平成 24 年 3 月 10 日（土）～11 日（日）

●場所

印西市 印西牧の原ひょうたん山 亀成川上流部 山崎池 竹袋稻荷神社
別所調整池 別所熊野神社 ビックひな展示会場 木下貝層 竹袋調整池
銚子屋 吉岡家木下河岸跡 道作古墳群 小林鳥見神社 巴塚 小林牧場
松虫寺 アカガエルの里 吉高の桜 印旛沼鈴木さんの店 印西市結縁寺 草深公民館

●エコツーリズム推進アドバイザー

財団法人日本生態系協会 地域計画室長 城戸基秀 氏

●参加者

ラーバン千葉ネットワーク、白井市自治会、猫の綿畑、木下まち育て塾、
小林住みよいまちづくり、いにはのアカガエルの会、エコネット千葉、印西市
特別参加者 フォットギャラリーいにはの里、(株)プロズ、東京情報大学

●視察およびアドバイスのスケジュール・方法

(1 日目)

- ・ 当地のエコツーリズム素材と思われる場所やイベント・携わる市民活動団体を講師に見学していただくことを主眼に講師をご案内した。

印西牧の原ひょうたん山、亀成川上流部、別所調整池、別所熊野神社、山崎池
竹袋稻荷神社、ビックひな展示会場、木下貝層、竹袋調整池、吉岡家木下河岸跡
道作古墳群、小林鳥見神社、巴塚、小林牧場、松虫寺 等

(2 日目)

- ・ ラーバン千葉ネットワークのフィールドである結縁寺をガイド。「日本の里 100 選」に選ばれた理由を知っていただく。
- ・ 午後は印西で活動中の市民団体とともにエコツーリズムを知る勉強会を開催。印西でのエコツーリズムの可能性と立ち上げの方法を勉強した。

(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣の効果

●参加者や関係者に与えた効果

今回、アドバイスいただいた中で、この地域の特質をあらわすキーワードをいただき（豊かな里山の自然・ふるさとの風景・歴史・訪れやすい立地・昔からの住民と新しい住民の存在・進んだ市民活動）改めて、自分たちが実施していることが客観的にみて観光資源として有効であることを認識したと思われる。

●今後の期待される効果

今回の活動を経て、各団体がエコツーリズム推進地域の仲間として認識出来たこと。自分たちの活動をどうエコツアーとして表現するかという視点が加わったこと。印西市役所の積極的参加が期待できそうだとしたこと。これらの効果は大きい。後はそれぞれが役割分担を決めて、まずエコツアーを意識しながら自分たちの活動に組み入れていくことがまず一歩だと認識できた。



(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣を実施して（地域からの声）

●参考になった事項

- ・ この地の魅力をまとめた言葉（豊かな里山の自然・ふるさとの風景・歴史・訪れやすい立地・昔からの住民と新しい住民の存在・進んだ市民活動）
- ・ 組織化することを最初に考えて、実行が遅れるよりも、とりあえず実行してみることを優先することをすすめていただいたこと。
- ・ この地がエコツーリズムをすすめるにあたってポテンシャルが高い地域であることを気付かせてくれた。

●その他感想

- ・ 今回の「エコツーリズム推進アドバイザー派遣」の実施によって、この地域のキーである都心に近い場所で豊かに残る里山の景観・文化・歴史を今現在保全したり紹介したりしている各市民団体と役所の地域振興課とを結びつけられる可能性が認識できたことは収穫であった。
- ・ 民間から立ち上げるエコツーリズムの可能性は大いにある地域であると思えるが、各地の例（特に飯能市）を聞いていて携わってくる人や団体の経済的自立をどう確保したら良いのか不明な点が気になる。（収入確保）

(エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス)

城戸アドバイザーからの地域へのアドバイス

講義として、エコツーリズムの基本的な考え方や、エコツアーの種類、世界や日本のエコツーリズムの事例、印西市と同じ里地里山でエコツーリズムを行っている飯能市でのエコツーリズムの実例、エコツーリズムが地域に及ぼす効果等について紹介を行った。その上で、印西地区におけるエコツアーの実施に向けた地域の資源の状況と、本地域でのエコツーリズムを推進する際のポイントなどをアドバイスした。その内容を以下に示す。

●地域の資源

- ・ 豊かな里山の自然：まちのすぐそばに、比較的良好な状態で里山が残されており、川や農地、樹林、ため池などがセットで残されている。
- ・ ふるさとの風景：郊外の田園・里山地区には景観を乱す人工物が比較的少なく、緩やかな起伏をもつ美しい景観が残されている。
- ・ 多くの人が興味をもつ歴史：地域にある社寺には大木が多く残された風格のあるものが多い。また、松虫寺などエピソードを持つ社寺も多く、木下の河岸など、一般の方が興味を持ちやすい歴史的な資源がある。
- ・ 訪れやすい立地：都心から1時間の交通の便のよさ、成田空港に近く、外国人観光客を誘致しやすい、ニュータウンのすぐとなりに里山があるなどの、多くの方が訪れやすい立地にある。
- ・ 昔からの住民と新しい住民：地域に昔からの住民とニュータウンの新住民がおり、これがエコツーリズムを推進していく際の大きな力になる。特に、地域の歴史や文化を良く知る昔からの住民の方々に協力してもらうことが大切。
- ・ 進んだ市民活動：里山保全や歴史資源の保全、地域おこしなどに取り組む市民団体が多く、その活動も進んだものである。

●印西市でエコツーリズムを進めるには

- ・ 関係者が集まる場をつくる：当地区では既に様々な団体によって、エコツーリズム的な活動が行われていることから、これらの関係者が集まり、エコツーリズムについての共通理解を深めたり、地域の方針を決めたり、異なる団体（たとえば自然系の団体と、地域の団体など）が協力することによって、地域でエコツーリズムを推進するきっかけになると考えられる。
- ・ エコツアーをやってみる：当地域では、これまでガイドウォークやエコハイクをはじめとする様々な取組が行われている。これらの取組をエコツーリズムという考え方で捉えなおして、エコツアーとして実施してはどうか。その際ポイントとなるのは、自然や歴史文化の保全などの目的を明確にすること、取組を持続可能なものとするために、ボランティアではなく採算の取れる料金を設定し、料金に見合ったサービスを提供すること、何らかの形で地元の人に協力していただき、地域にエコツーリズムへの意識を広げていくことである。
- ・ 広報と集客：エコツアーとして採算の取れる料金を設定すると、無料や数百円程度の参加費のイベントと違い、広報と集客の重要性が高まってくる。里山地域でエコツーリズムを進める場

合、広報や集客を各団体が行うことは負担が大きいので、この部分は行政が担ってもらえると大きな力となる。

●地域に対する印象、コメント（メッセージ）

本地域は、質の高い自然観光資源があり、地域を想い活動する人たちが既におり、人が訪れやすい立地に恵まれた、エコツーリズムに適した地域であるという印象を強く受けた。既にそれぞれの団体が、エコツアー的な活動を行っていることから、これらの団体が集まって、エコツーリズムについて共通の理解を持ちながら、各団体のイベントを進めていくことで、エコツーリズムが定着・推進される可能性があると感じた。

一方、エコツーリズムでは、一般的にはルールを設定したり、採算の取れる料金設定を行う（必須ではないが）といったことが考えられ、場合によっては既に各団体が行っている独自の取組を見直す必要も生じると考えられる。このような可能性・必要性も踏まえたうえで、当地域ならでのエコツーリズムの考え方、進め方を関係者が集い意見交換をしながら決めていくとよいと思う。そのようにして、印西独自のエコツーリズムを確立して進めていけば、日本国内だけでなく海外にも知られる里山エコツーリズムの先進地域になる可能性があると思われるので、ぜひ、取組を進めていただきたい。

